

私の履歴書

釜本 邦茂

⑤

監督専任で1年日本リーグを浦和が相手。1-0で勝つ（JSL）を戦った後、1985年2月にヤンマーを退社した。普及に力を注ぐ方が日本サッカーの発展に役立てると思い、自分の会社を立ち上げて全国各地のサッカー教室を飛び回る毎日になった。

不振の原因は私も選手もフロントも未熟だったことに尽きた。93年1月、交通事故で亡くなったのがつまずきの始まり。

Jリーグ船出 G大阪へ

負け越し続き 3年で退任

2度目の監督業

91年3月、松下電器（現G大阪）から監督の話が舞い込んだ。JSL2部に落ちた古巣のヤンマー（現C大阪）に代わり、関西の盟主になりつつあるチームだった。94年末まで3年半の契約を交わしたのは近づくJリーグの足音に血が騒いだせいだった。

93年5月16日のJリーグ船出の試合は親友森孝慈が率い

のに勘違いする選手。北新地で試合の切符をかざしたら女の子が群がってきたとか、狂騒曲のただ中でチームは前期（8位）、後期（6位）とも8勝10敗で負け越した。外国人選手の補強にも苦勞した。ブラジル代表歴のあるエジバウドがオフで帰国中の93年1月、交通事故で亡くなったのがつまずきの始まり。

Vに7失点したのがこたえて、後期も第8節まで1勝7敗の最下位に沈んだ。

9月10日第9節のV川崎戦の前日、G大阪の八木勝吉社長から契約の延長はないと告げられた。シーズン中に約束した「4位以内」は実現不能になったからだ。その約束するまで勝ち進んだ。



ガンバの監督時代

「若手に切り替え3年でチームを立て直す」と93年のオフに立てた方針も、年が改まり6月に社長が代わりと無に帰した。JSL時代なら許

は外国人選手をしっかりと補強してくれることが前提だと思っていたのだが、ドイツ人コーチを補佐役にする案もあったが、お飾りの監督になる気はなく通告を受け入れた。「後任は未定なので天皇杯まで指揮を執ってくれ」と頼まれた。選手には13日の練習前に「今季限り」と伝えた。（日本サッカー協会顧問）